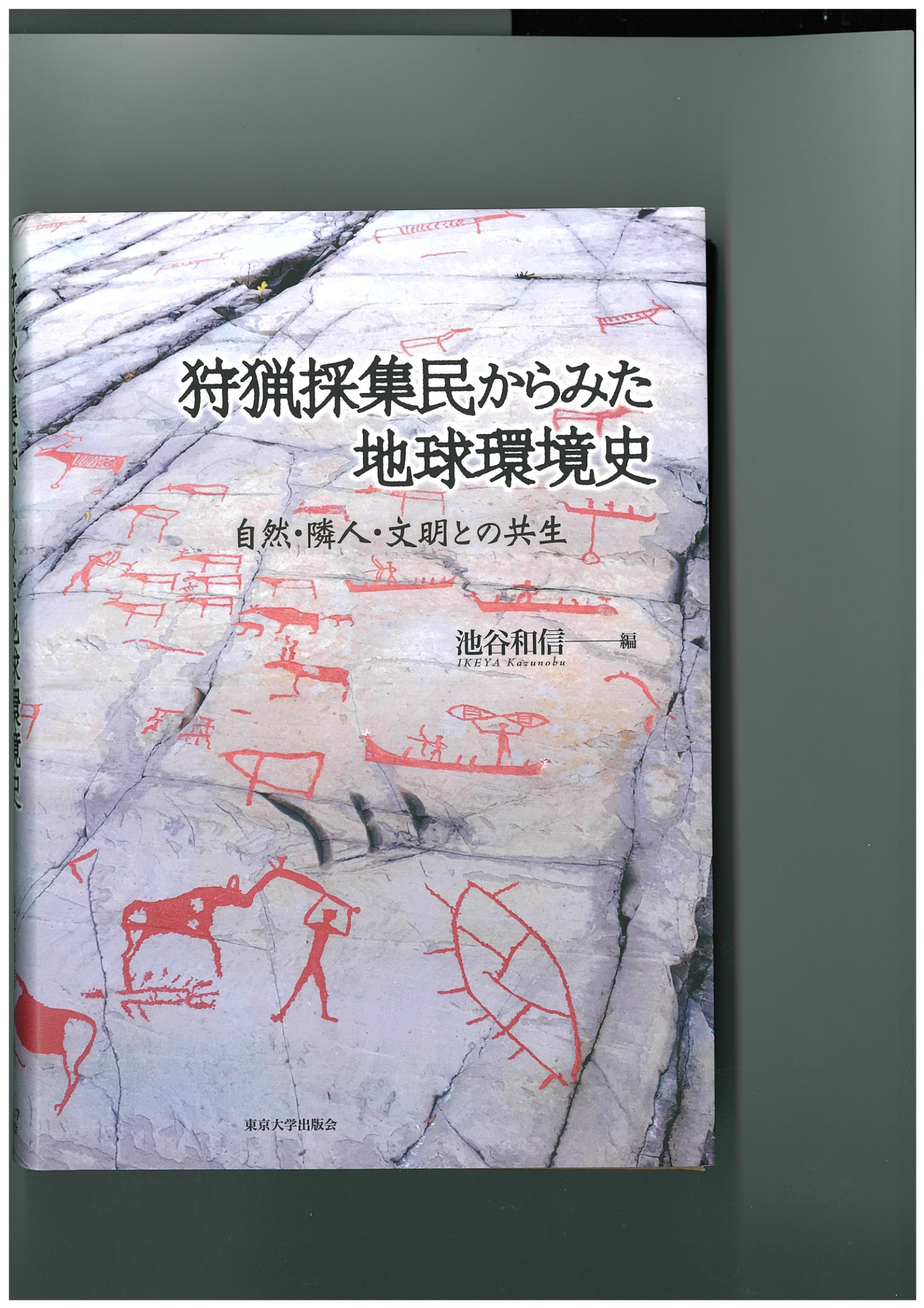




狩猟採集民からみた 地球環境史

自然・隣人・文明との共生

池谷和信 編
IKEYA Kazunobu

東京大学出版会

14 アマゾンの森林開発のもとでの

現代的な民族間関係大橋 麻里子 254

14.1 ペルーアマゾンのシピボとアシャニンカ 254

14.2 アマゾンの土地区分——氾濫原と高地、そしてシピボの土地利用 256

14.3 シピボの漁と狩猟 257

14.4 シピボとアシャニンカの差異と補完関係 260

14.5 ペルーアマゾンの森林開発と民族間関係 265

14.6 おわりに 267

15 森のキャンプ・定住村・町をまたぐ狩猟採集民

——ボルネオ、シハンの現代的遊動性加藤 裕美 271

15.1 はじめに 271

15.2 森のキャンプ、定住村、町にまたがる柔軟な住まい方 273

15.3 多箇所居住における隣人との関係の重層性 277

15.4 まとめ——グローバル社会とのつながりを住まい方からとらえる 279

附論 5 狩猟採集民・農耕民・文明人における病気と病山本 太郎 285

1 はじめに——原初の医学から狩猟採集民の時代

2 旧石器時代の人骨が語ること 3 農耕の開始がすべてを変えた

4 生態系への際限のない進出と感染症 5 現代人の健康と病気

6 まとめ

結論 地球の先住者から学ぶこと池谷 和信 297

1 はじめに 297

2 本書の3つの意義 297

3 狩猟採集民研究と地球学 302

あとがき 303

執筆者紹介 305